

令和元年度第1回淡路市子ども・子育て会議（第17回） 会議録

開催日：令和元年6月25日（火）13：30～16：00

開催場所：市役所2号館3階大会議室4・5

出席委員：16名 欠席委員：4名

傍聴人：2名

開会あいさつ 伊木会長 より

報告事例1 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査結果について

説明：「資料1 ニーズ調査(地区別・年齢別の特徴)について」

「資料2 ニーズ調査：自由記述の主な意見について」

<委員からの意見>

会 長： 祖父母に子どもの面倒を見てもらえるか。という項目の地区ごとの傾向について、実態と比べてどう思うか。

委 員： 北淡地域は、祖父母が同居していたり、近くに住んでいたりする事が多く、日常的に見てもらえているように感じる。

委 員： 津名地域では、祖父母が近くに住んでいる人や、祖父母が遠くに住んでいるなど様々であるが、近くに祖父母が住んでいても頼れないといった声が多いように感じる。

日常的に見てもらえない人達の意見を吸い上げていかないと移住者は増えない。要望が形になっていくと子育て世代が増えていくのでは。

人口に占める割合は少なく、それにかける費用を考えると割に合わないと思うのですが、将来的なことを考えると大事なことだと思う。

委 員： 東浦地域では、島外から来た人にとって、どこに何があるのか分からないなど、なかなか馴染みにくい環境にある。交流の機会などをつくり、情報共有がスムーズになるようになれば、住みやすくなると思う。

会 長： 子育て学習センターの利用の実態はどうか。

委 員： このアンケートは、保育所に通っている人を対象としているのか。

事務局： アンケートは、保育所や認定こども園に通っている人と、子育て学習センターに通っている人を対象にしている。

委 員： 北淡地域の方が利用している割合が多く、津名地域の方が利用している割合が少ないという結果となっているが、各センターとも一定の利用があり、津名地域で子育て学習センター利用率が低いというのは、誤解を与える表現に感じる。

事務局： 東浦地域や津名地域は、子育て学習センターの登録人数は多いが、人口構成など

の条件を踏まえると、利用者の割合としては少なくなるということだと思う。
どこのセンターでも利用できるもので、北淡の方が利便性のいい津名や東浦のセンターを利用しているケースがある。各センターの利用率ではなく、どこの地域の方がセンターを利用しているかという割合となっている。

会 長： 学童、一時預かり、病児保育などはどうか。

委 員： NPO 法人の運営であるファミリーサポートセンターは、利用料金が高いため、なかなか利用につながらない。

事業所内保育施設の中には、16 時までしか預かってもらえない。両親は 17 時 30 分まで仕事で、祖父母が入院して 2 ヶ月程、16 時以降にファミリーサポートセンターを利用したいというニーズがある。事業所内保育の実態を行政と協力して把握したいと思う。ファミリーサポートセンターは、現状では利用できていない人がいるので、すぐ預けられる仕組みを、様々な方法で出来ればと思う。垂水のほうでは「たくする」といって 20 名くらいのサポーターがいて、1 時間 2,800 円と高い。預ける親もどれだけ金額を覚悟できるか。淡路市はファミサポの面が弱いと思うので前向きに考えていけたら。

会 長： 自由意見を読んでいくと、急に何かあった時に預けられるサービスが不足している。実態把握を元に色々サービスの充実とか、公的なサービスだけではなくインフォーマルな部分も作っていかねばいけない。

委 員： ファミリーサポートセンターの実績について補足資料をご覧いただくと、実利用者数もコーディネート件数も少ない。これはマッチングできたものだけなので、このような実績になっている。一時預かりとか学習塾への送りとかが主になっている。ファミサポ会員登録者数では、協力会員のうち実際に活動可能な人は各地区とも少なく、活動に限界がある。

利用に至らなかったケースも含め、相談を受けた状況としては、東浦地域で相談が多く月に 1 件ほどある。他は年に数件である。津名地区は、移住してきた方の相談や、保育所は 19 時まで預かってもらえるが小学校に上がると学童が 18 時までなので、学童の迎えの相談が多い。岩屋地区では、保健師からの相談などもあり、若い方で出産時の上の子の預かり、母子家庭で育児疲れの際の預かり、障害のある子どもさんの預かりなどがあるが、実際に動ける人がほとんどいない。1 名くらい。北淡、一宮は働いている方から病児の預かりの相談があった。東浦は、先程の話にあったように、託児所利用者の 16 時以降の利用の要望がある。ファミサポのニーズがあるが、支援しきれていない状況である。

委 員： アンケートの自由記述を見ていると、子育て中の親の悲痛な叫びがすごく伝わってくる。社会環境の変化により、祖父母が働いている家庭が多くなっており、80 歳くらいまで元気で働いていて、祖父母に頼って育児ができないのが実情である。

一方、高齢者側でも、暇ではないが、子育て世代が困っているのであれば手助けしたい人も多いのではないかと思うが、こうした子育て世代の思いが、世代間交

流がないことによって伝わっていないのかもしれない。イベントなど子どもと地域の人が交流できる場やお互いを知ってもらう、お見合いできる環境を地域で作っていかないといけないと思う。子育ての困っている人のニーズや叫びを世代間を越えて、みんなにわかってもらえるような場が必要。

介護保険で、家事代行や買い物などのサービスがあるように、子育て世代でも利用できるような応援制度が必要なのではないか。

会 長： 世代を超えた地域交流はどの地域でも希薄化している。行政と一緒に子育て世代を応援することが出来ればと思う。

委 員： 淡路市は県の中でも高齢化率が高く、また高齢者の就業率が高い。元気に働いているお年寄りが多い特徴がある。

子どもと地域の人との交流という事では、農業や漁業への子どもの参加などを通じた交流があっても良いのではないか。

小児救急についての自由意見があるが、人が少ない事もあり、休日診療などはどこかに集約せざるを得なく、場所としては地理的、隣に医療センターがあるということで洲本になっているのが現状である。夕方や早朝に地域で小児科が不在となっているのは申し訳ないと感じている。

予防接種については、はしかなどの定期接種の接種率は良いが、インフルエンザなどの任意接種はなかなか費用も掛かるので集団接種は難しい。

事務局： 子どもと地域の交流について、社会教育課では、子ども教室において、児童のニーズ、ボランティアの方の発案等、協力していただける企業がいれば、農業・漁業体験など行っている。

委 員： 自由意見には多面的な意見が出ており、教育に対する期待や意見に関しては今後活かしていきたい。

各学校では、老人クラブや公民館などが地域性を活かした環境体験学習（漁業、農業など）を行っており、世代を超えた交流を行っている。

小学校同士や中学校、保育所などと連絡を取りあって一貫した学びが出来るように進めている。未就学児については、小学校に上がるまでのサポートの充実を今後図っていく必要がある。

委 員： 自由意見に認定こども園と保育所との質の違いについての記載があるが、認定こども園でも保育所でも小学校に上がるまでに必要な教育を同じように行っている。保育士の研修も公立私立関係なく一緒に行っている。

委 員： 東浦地域は利便が良いので移住者が多い。そのため、朝7時から夜7時まで預かっている子が多い。発熱した場合にも、保護者が来るまで預かれるよう、看護師を入れるなど対応を行っている。

保育の質に関しては、園内外における保育士の研修も充実させ、共有を大事にしていきたい。また、就学に向けた教育もしっかりと行っているので、保護者の方へのアピールも行っていきたい。

東浦地域は世代間交流として、年数回、高齢者との交流や、漁業組合の婦人部の

方と一緒に魚を調理して食べるイベントなども行っている。

副会長： 津名の特徴としては、祖父母の支援プラス社会資源を使って子育てしている方は多いと思う。子育て環境の質が重要で、緊急時には祖父母に頼れる環境にあるので、日常的に頼れるファミサポや一時預かりを充実させていく必要があるのではないか。津名地区での一時預かりのニーズは、周辺地区の一時預かりの開始や、保育園等の入りやすさに伴って減っている。時代の変化に沿った対応を行っていくべきである。

ファミリーサポートや一時預かりはとても重要であり、数の充実だけでなく、質の向上も重要視されている。子育て世代が活用できる社会資源を増やしてほしい。

委員： アンケートで、子どもが生まれた直後のサポートについて設問を追加していただいたが、15%の方がヘルパーを使いたかったとしている。病気のある母親や双子などでは特に産後すぐのサポートは必須になっている。

若年であったり障がいを持つ母親などハイリスクの方については、養育支援訪問などサポートの対象となるが、それに満たないが支援を必要としている方をサポートできるものが必要だと思う。

自由意見では保健師に対しても厳しいご意見が見られる。人材育成や母親に寄り添えるような支援を考えていきたい。

委員： 土日に働いている保護者も多く、そのためのサポートも必要である。

委員： 保護者が働きながら子育てする中で、土日祝に苦勞している状況を感じる。行政だけの努力では限界があるため、民間主体のサポート活動とそれに対する行政の支援といった手法も検討していく必要があると考えている。

報告事項2 現行計画における各種事業の実績について

説明：「資料3 現行計画における各種事業の実績について」

<委員からの意見>

委員： 病後児保育の利用が少ないように感じた。まだ宣伝が足りないのではないかな。

委員： 病後児保育というのは、どういう病気が対象となっているのか。

委員： インフルエンザなども対象で、元気になってからの利用となる。病後児保育を利用できる例を具体的に示してもらえると分かりやすい。

会長： 利用する際に保護者の方が迷わないよう、周知が必要と思う。

報告事項3 次期計画に向けたニーズの試算値について

説明：「資料4 次期計画に向けたニーズの試算値について」

<委員からの意見>

- 副会長： 2号認定、3号認定の利用希望人数は年々減少しているが、地域ごとの把握はできるか。地域によってニーズの差はあるのか。
- 事務局： 地域ごとの把握は行えるが、どのような区域設定で受給計画を立てるか、実現性などの面から事務局で判断する。
東浦地域では、希望した園に入園できないなどの地域差はある。区域設定については今後模索していく。
- 委員： 近年育児休暇明けに職場復帰の希望が多くなった事により、低年齢児の入園希望が多いが、0歳児は保育士を多く必要とし、現場の対応が出来ず、断らざるを得ない事も多い。
- 副会長： 0歳児、1～2歳児の入園希望はあるが、保育士の人数や施設の面積の関係で対応できていない。心苦しく思う。
- 事務局： 子どもの数は減っても、母親のフルタイム就労が増えており、保育のニーズは増えており、対応したい。
- 委員： 公園の遊具の管理が不十分であったり、産後の家事代行サービス、双子親の支援など課題は多い。自 NPO では保護者の交流の機会や居場所づくりのため、月1回だが日曜日にも開けている。お年寄りには居場所のサービスがあるが、子育てサロンのようなものが少なく、そういうことが出来たら良いと思う。
- 委員： 東浦では子どもが増えても施設が増えない。他地域の園に通わせたとしても、小学校に上がる際、園からのグループがすでに出来ていたりするので、そういう疎外感のある環境に島外の人が入っていくのは難しいと思う。保育士の質に関しても、条件が優れている他市に行ってしまうのではないかと。基本的な事をやってほしい。
- 事務局： 同じ小学校区にある保育所に通う傾向が強いといった地域性も含めた対策は大切だと思う。地域住民と子どもの交わりは相互に必要なと思う。保育士の条件に対して、努力は行っている。
- 委員： 出産後のサービスについては、自分の子育ての際もあれば良かったと思う。淡路市は他市と比較して出生率が良いので、この出生率を維持でき、2人目、3人目を産もうと思える環境づくり、サービスが重要と思う。
地域交流は、働く母親には生活で手一杯で、そのような時間を作る事そのものが難しい。そういう忙しい方も参加できるように、時間など配慮してほしい。就学後の教育についても、島内に質の高い教育があれば良いと思う。進学時に島外に出してしまうと帰って来るのが難しい。
- 会長： 介護、教育など様々な部門で課題を共有し解決していかないといけない。
- 事務局： 教育の質の向上の取組として、タブレット端末を活用した学習など先進的な取組も行っている。また、高校の説明会に地域住民にも参加してもらい、知ってもらえる機会を増やしている。島内の高校の進学率は高く、もっと知ってもらいたい。また、地域バスの運行（10月から実施）をしており、通学の不便を無くす取組を行っている。

委員：ファミリーサポートに関しては、試算では希望はないという結果になっているが、配布資料や社会状況からも必要性があると感じる。現在は不十分であるが、社協だけでなく、地域に頼ってもらえるような環境づくりになるとよい。

その他

- ・次回の子ども・子育て会議は9月頃の予定。

開会あいさつ 三浦副会長 より

以 上